

収蔵品展

文化財をつなぐ —修復文化財の世界—

会期

令和5年 12/9^土 —

令和6年 2/25^日

開館時間

9:30～17:00(ご入館は16:30まで)

入館料

無料

会期中の休館日

月曜日(1月8日、2月12日を除く)、
年末年始(12月28日^木～1月4日^木)、1月9日^火、2月13日^火

展示解説会

12月16日^土、1月13日^土、2月11日^日・祝
いずれも14:00から



▲木造天部形立像(金勝寺所蔵、【旧山口寺伝来資料】)
滋賀県指定有形文化財



▲修復中の木造四天王立像のうち伝広目天立像
(金勝寺所蔵、【旧山口寺伝来資料】)
滋賀県指定有形文化財

主催 栗東歴史民俗博物館

滋賀県栗東市小野223-8

TEL : 077-554-2733 FAX : 077-554-2755

<http://www.city.ritto.lg.jp/hakubutsukan/>



収蔵品展「文化財をつなぐ -修復文化財の世界-」

博物館の仕事、と聞くと、まず「展示」を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。あるいは、「調査・研究」をイメージする方もいらっしゃるかも知れません。その一方で、文化財の保存や修復に取り組むことも、博物館の大きな役割の1つです。

この展覧会では、栗東歴史民俗博物館の収蔵資料から、さまざまな事例を通して、文化財の修復について紹介します。



▲被災直後(左)と修復後(右)の木造男神坐像
(五百井神社所蔵)
滋賀県指定有形文化財

平成25年(2013)9月の台風18号では、山崩れによって、五百井神社(栗東市下戸山)の本殿や拝殿が倒壊し、一帯が土砂と倒木に覆われるという壊滅的な被害を受けました。被災後、神社の関係者や地元の人たちが中心になって、土砂に埋もれた神像を探し出す作業が行われ、10世紀後半から11世紀初めの男神坐像とともに、誰も存在を知らなかった14世紀末から15世紀初期の狛犬(1対)も発見されたのです。

栗東歴史民俗博物館では、これらの神像と狛犬を発見直後から預かるとともに、MIHO MUSEUM(甲賀市信楽町)の協力を得て、保存・修復に取り組みました。その後、男神坐像は、滋賀県指定有形文化財に指定され、被災からの復興を目指す神社の関係者や地元の人たちの励みとなりました。

栗東歴史民俗博物館では、江戸時代後期の栗太郡岡村(栗東市岡)で活躍した画人・岡笠山の作品を多く収蔵しています。その中には、本紙のみの状態で伝来したものもありましたが、軸装された作品と並べて展示すると、その保存状態や見栄えの違いが際立っていました。

近年、本紙のみの状態で伝来した岡笠山の作品が文化財修理の機会を得て、軸装された姿に生まれ変わりました。

その姿は、展示会場でご覧下さい。



▲平成29年(2017)特集展示「立場のにぎわい」での岡笠山の作品の展示

【関連企画】

歴史文化財講座「文化財をつなぐ -文化財修理の現場から-」

栗東歴史民俗博物館の収蔵資料を含めた滋賀県内の文化財は元より、全国各地の^{そうこう}装潢文化財^(※)修理に携わって来られた坂田 さとこ さんをお招きし、文化財修理の実際をお話しいただくとともに、文化財を後世に伝えるために博物館が果たすべき役割について考えます。

(※)装潢文化財とは、主に紙や絹を中心とする素材で構成された「絵画」や「書跡」といった美術工芸品のことです。

日時 2月17日(土) 10:00~11:30

講師 坂田 さとこ さん(株式会社坂田墨珠堂 代表取締役・装潢師)

定員 90名

参加費 無料(お申込み方法は下記のとおり)

*参加のお申し込みは、1月10日(金) 9:30より、電話(077-554-2733)にて受け付けます。

(以後、栗東歴史民俗博物館の開館中に受け付けます。)